



須留が峰



校訓 「自立 協同 創造」
校是 「生きるとは 分かちあうこと」
養父市立養父中学校 学校だより
(令和8年1月21日) 第35号

学校教育目標「しなやかな強さをもち 協働的・創造的に活動できる生徒の育成」

1・17防災を考える会

阪神・淡路大震災以来、兵庫県内のほぼすべての小・中学校で1月17日に避難訓練や追悼集会等を実施していますが、今年度は土曜日にあたりましたので、養父中学校では「1・17防災を考える会」として1月16日(金)に実施しました。内容は以下のとおりです。



①地震を想定した避難訓練(13:28頃各掃除場所)

(1)緊急地震速報の音声を放送で流す。

「訓練、訓練。ただいま、当地方に地震に伴う大きな揺れがありました。」

(2)シェイクアウト訓練(各掃除担当教員が担当の生徒に指示を出す)

・まず低く　・窓から離れる　・頭を守る(机の下に隠れるなど)　・動かない

(3)避難指示の放送

「地震がおさまりました。まだ余震が考えられます。より安全な場所に避難しましょう。」

②防災学習(13:40頃から各教室)

(1)震災関連動画、生徒会役員作成の防災動画の視聴

(2)事前に各家庭で聞いてきた過去の災害の経験や家庭の状況をもとに、「My避難カード」を作る。

③生徒集会(14:40頃からランチルーム)

(1)黙とう (2)学校長の話 (3)生徒会長の話 その後、各専門部より諸連絡

【学校長の話】

“平成6年から7年にかけての但馬の冬は、時折屋根の雪下ろしをしなくてはいけないほどの大雪に見舞われました。私は当時の地名で兵庫県養父郡関宮町大谷というところに住んでいましたが、たしか、ひと冬に2回程度雪下ろしのために屋根に上がったように思います。あの1月17日の朝も屋根の上にはかなりの雪が積っていました。そして、まだ寝ていた午前5時46分、「ドーン!!ドーン!!」という突然の大音響で目を覚ましたのです。それは、大雪で屋根がつぶれて落ちてきたかと思うくらいのたいへんな衝撃でした。実は、近くに寝ていた私の妻のおなかの中には私たちにとって初めての子どもがいましたので、私は母と子を守ろうと、瞬間に妻に覆いかぶさったのを覚えています。



すぐに1階に居た家族(私の実母)が「今、大きな地震やったけど1階は大丈夫や! 2階はどうや! ?」と大声をあげました。「2階もなんともない!」と大声で答えた後、「いったい家の外はどうなっているのだろう?」と外に出てみました。幸い近所の家にも大きな被害はなく、とりあえずひと安心してもう一度布団の中に入りました。

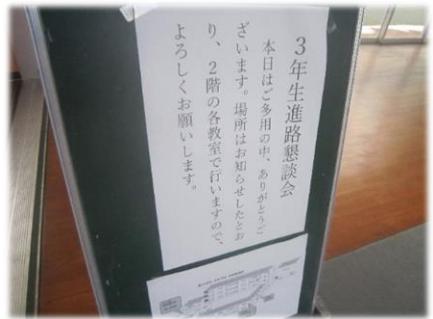
30分以上の時間が経過した後だったでしょうか? 起床して普段どおりにテレビのスイッチを入れると、神戸のあちらこちらで大火災が起きたり、多くのビルや高速道路が倒れたりしている様子が画面に映し出されていました。もちろん、たくさんの一般住宅もつぶれてグジャグジャになっていました。すぐに「兵庫県南部地震」という名

前がつけられ、やがてその被害の深刻さから「阪神・淡路大震災」と呼ばれるようになりました。今日はその日から31年目が経過したことになります。この震災では、6,434人の犠牲者が出てしまったのです。

今年の1月6日(火)の10時18分頃に鳥取県西部や島根県東部を震源とする大きな地震が発生し、但馬でも震度3を記録しました。ちょうど、どの部も冬休みの部活動中でしたが、震源が近いことやはっきりと地震と分かる揺れであったことを踏まえて、すぐに教頭先生に校内放送を入れていただいて全員を生徒玄関前に避難させました。すると、どの生徒も顧問の先生の指示や誘導に従ってきちんと行動してくれてとても嬉しかったです。結局は、再び大きな揺れに襲われることはなく30分程度で避難を終えたわけですが、防災というのは「空振り」でも良いので、できることを面倒くさがらずにやりきるということが大切であるということをこれからも忘れないようにしていきたいと思います。それが、6434人の犠牲者の死を無駄にしないということにつながると思います。”

3年生 進路決定に向けて

すでに進路を決定している生徒もいますが、1月14日(水)・15日(木)と2日間にわたる進路懇談会(三者面談)を終え、いよいよ3年生全員の進路希望先が固まってきた。私からは、「担任や学年の先生の助言に耳を傾けてしっかりと志望校を見定めるようにしよう!」などと激励の言葉をすでに送っています。くれぐれもインフルエンザなどの感染症に気をつけ、万全の状態で試験当日を迎えてほしいものです。ちなみに、2月10日(火)私立高校(近畿)入試、16日(月)が公立高校推薦・特色選抜適正検査、3月12日(木)が公立高校一般学力検査の日となっています。



進路実現に向けた営みの最中ではありますが、現在、校長室で「3年生卒業面談」を実施して、3年間の思い出や将来の夢などについてのいろいろな話を3年生から聞いています。

「ひと言の重み」～こんな新聞記事に出会いました

“JR 西日本の大阪環状線では、駅ごとに異なる発車メロディーが鳴る。桜ノ宮(さくらのみや)駅は大塚愛さんの「さくらんぼ」、歓楽地・新世界に近い新今宮(しんいまみや)駅はドボルザークの「新世界より」といった具合だ。中でも鶴橋(つるはし)駅の軽快なリズムが気に入っている。スイス民謡風のメロディーで曲名は「ヨーデル食べ放題」、駅周辺には焼肉店が多く、歌詞を知れば選曲が納得できる。

一方、大阪メトロ(地下鉄)は、笑いの街ならでは「遊び心」があまり感じられなかった。ところが昨年、大阪・関西万博の会場に乗り入れた地下鉄中央線はひと味違った。会場最寄りの夢洲(ゆめしま)駅に向かう際、車内放送にひと言付け加えられていた。

「次は、いよいよ 夢洲です。」

大阪府内のある小学校では、校長が学校便りにこう記した。

「思わずくすっと笑ってしまいました/その後も万博のテーマソングが流れるなど特別観のあるアナウンスは続きました/ただ、一番車内がどよめいたのは『いよいよ』という言葉が流れた時だったように思いました」

たったひと言で、人の気持ちをプラスにする「言葉の力」に感心したという。その反面、言葉一つで気持ちをマイナスにすることもあるとし、児童に言葉の大切さを伝えているそうだ。

新年を迎え、こちらも記事で扱う言葉の重みを改めてかみしめつつ、「いよいよ」と心躍るニュースに今年はどれだけ会えるかを楽しみにしている。”

<令和8年1月7日付け 読売新聞>